

普及センター



もいおか



第114号平成23年11月25日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎

管内で「ハクビシン」による農作物の被害が増えています！

県内では平成19年以降、県南を中心に被害が拡大しています。
(被害作物：イチゴ、スイカ、メロン、トマト、果樹類、トウモロコシ、鶏等)
昨年までに、盛岡市・雫石町や二戸市でも目撃情報がありました。
今年は紫波町・矢巾町・滝沢村の「ぶどう」で被害が確認されています！

①ハクビシンとは何者だ??

- ・ ハクビシンは、ネコ目ジャコウネコ科の動物
- ・ 大きさは、しっぽまで含めると約1m
- ・ 雑食性で何でも食べる
- ・ 夜行性
- ・ バランス感覚に優れる



鼻から額にかけて白い線



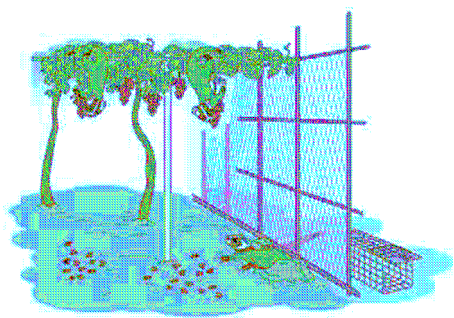
針金の上も移動できます



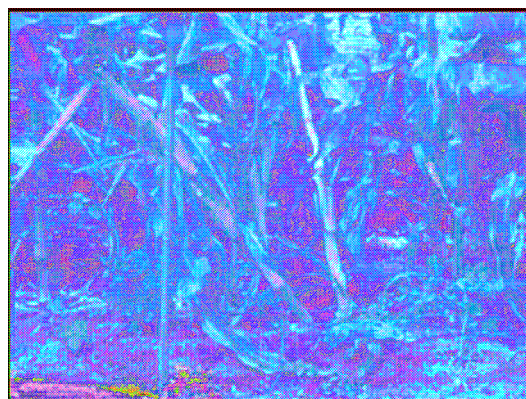
後足 前足

後足、前足ともに指があり、丸みをおびているのが特徴

②被害の特徴



ぶどう棚に足をひっかけてぶら下がり、頭を下にして両手を使って食べます。皮は吐き出します。



トウモロコシの茎を斜めに倒し、実を食べます。体が軽いので、茎は完全に倒れません。

③被害防止対策 …… まずは冬期間にエサを与えないこと！

栄養状態が良いと、一年中繁殖し、あっという間に増えていきます！

自宅周辺で、柿の実や銀杏・栗などを、収穫せずに放置していませんか？

生ゴミや廃果実などを、堆肥がわりに農地や庭先に放置していませんか？

そのままでは良いエサになってしまいますので、かならず埋没処理をしてください！

活用に手ごたえ！ねぎ主要害虫のトラップ調査



JA 新いわて南部では、ねぎは主力品目の1つとなっており、高品質なねぎの出荷を目指しています。この品質に大きく影響するのが、害虫による出荷葉の被害です。そこで、適期の防除が必要となり、被害が大きいネギコガとネギハモグリバエについて発発生消長調査に取り組みました。

調査は今年で2年目であることから、発発生消長に加え、地域での発生の違いを見るために雫石町内4箇所フェロモントラップを設置し、6月から9月までの3ヶ月間、週に1回調査を行いました。調査はJA担当者が主体となっており、発生ピーク時には病害と合わせた防除情報で防除を呼びかけました。

加えて、JAねぎ専門部長の提案で、情報が迅速に届くよう、生産者数名に携帯メールでの配信を試みました。生産者からは、「防除情報を適期に受け取ることができ、ネギの品質向上につながった」と好評でした。

次年度もフェロモントラップ調査を通じた防除情報を迅速に提供できるよう取り組んでいくこととしています。

設置した害虫トラップ



東北農村青年会議岩手大会 東日本大震災復興支援イベント とうほく大軽トラ市の開催



東北農業青年クラブ協議会が主催する「東北農村青年会議岩手大会」が盛岡市で開催（11月11日～11月12日）され、その取組みの一環として2日目の12日（土）には盛岡駅西口イベント広場を会場として、「とうほく大軽トラ市」が行われました。



このイベントは、東日本大震災の復興支援を目的としており、東北の農業青年が生産した農産物の直売や、東北6県の野菜や牛肉を大鍋で煮た「6県汁」の販売、趣旨に賛同する企業による飲食物や特産物の物販も行われ、売上の一部は被災地の義援金になりました。



この「とうほく大軽トラ市」には、盛岡地方農業青年組織連絡協議会が推進チームとして主体的に企画し、新聞やラジオ、チラシ配り等のPR活動を含め、イベントの成功に向けて努力してきました。その甲斐もあってか、当日は天候に恵まれ、2000人を越える買い物客でにぎわい、特に「6県汁」は美味しさのあまり、あっという間に売り切れになり、イベントとして大成功となりました。

普及センターでは、こうした農業青年の元気な取組みを支援し、地域の農業振興につなげていきたいと思っています。

